生理用ナプキンの入手は高地に住む女性たちとって深刻な懸念

チェイク（ブータン）

ブータンは人口が 80 万人強の小さなヒマラヤの王国で、人々はチベット高原の尾根に守られた南アジア山脈の高地に住んでいます。ブータンは世界の人々から最後の理想郷（シャングリラ）、そして世界で最も幸せな国と呼ばれ、完璧な国だと思われています。しかし、その山や谷を深く分け入ると、そこに暮らす人々の心境は複雑なようです。

ガサ村　　写真提供：ブータン政府観光局ウェブサイト

静寂な山々に囲まれた高地民族や遊牧民の村は世界でも有数の景色に恵まれた場所ですが、世界から遠く切り離されている厳しい現実に、人々は静かに耐えています。それら自然がもたらす過酷な状況の 1 つが、女性や女児が生理用品を入手できないという悲しい事実です。

国内の関連組織や機関は、衛生的なライフスタイルのために生理用ナプキンの使用を推奨し、特に月経衛生デーを中心に活動を行っていますが、そのメッセージは谷や山を越えては伝わっていないようです。山間のコミュニティの女性たちは、月経衛生や生理用ナプキンについてこれまで聞いたこともありませんでした。それらが個人や家族の衛生に良いと考える人が増えたのは最近になってからです。

生理用ナプキンの支援運動　写真提供：BBS 保存記録

子孫を残すことができる女性の体の生物学的機能は世代の持続可能性を保証するものであり、祝福されるべきものではないでしょうか？ 答えはもちろん“Yes”ですが、残念なことに、世界の多くの女性たちは毎月の月経期間をむしろ「大きな恥」だと思っています。女性たちは、個人や隣人、地域社会、さらには家族からも、固定的概念で見られ、無視や疎外、侮辱などを受けています。特にブータンでは、文化的な行動規範や原則の中で、いまだに月経に対する社会的な偏見があります。月経に対する偏見が文化的、宗教的に広まっているため、より不快感が増すのです。

2018 年　月経衛生デーの BBS スタッフ

ブータンは今後数年間で後発開発途上国を卒業し、経済は劇的に伸びると予想されています。しかし、生理用ナプキンの入手の困難さは今後もしばらくは大きな課題として残るでしょう。ガサ、ラヤ、ルナナ等の山岳地域に住む女性たちは、この不便な状況にかなり長い間耐えてきました。

特にルナナのコミュニティの状況は長い間かなり過酷でした。彼女たちは、雪や氷河、歯がガチガチをと震えるような寒さやその他の厳しい状況については知っていますが、生理用ナプキンについては知りません。若い世代以外は、その存在さえ知らないのです。ルナナの女性にとって、生理用ナプキンの入手さえも日常の困難な問題のひとつであり、医療施設が近くにないことは言うまでもありません。生理中は多くの女性が布あてを使用していますが、それさえ使わない人もいます。

ルナナの女性　写真提供：グーグル

ルナナのテンチョ集落（Toenchoey）出身のツェリン・デマさんが、初潮を経験した時の恐怖を語ってくれました。彼女はそれが自分だけに起こっていると思ったため、偏見や差別を恐れて誰にも言えませんでした。生理用ナプキンに関する知識も全くなかったため、彼女は布あてを使って一生を過ごしました。「コミュニティの中で、私と同年代の女性が生理用ナプキンを使用することはとても稀でした。」と、ツェリンさんは言います。布あての使用は不衛生で、感染病の原因となることを今では知っていますが、代用品が無いと言います。もう 1 人の女性ドルジ・ペムさんも、同じようにコミュミティの高齢女性は生理用ナプキンを使用していないと言います。

一方、彼女の 16 歳の娘で首都の学校に通っているテンジン・デマさんは、月経の保健衛生についてよく知っています。少数でも、生理用品の知識を持ち、それを使用する女性が増えれば、若い世代への支援となるでしょう。しかし、行く手を阻む問題が残っています。生理用ナプキンが入手できないことです。

一番近い店まで 10 日もかかるような場所では、女性は日常的な健康と衛生について妥協せざるをえません。最も簡単な方法でもプナカやガサから大量に輸送しなければならず、ナプキンの価格が通常の価格の 3 倍から 4 倍になってしまいます。人々はヤクの放牧だけで生計を立てているため、それは手の届かない贅沢品になってしまうのです。

月経衛生デーを祝い支援する人たち（男性も、女性も）
2018 年月経衛生デー

生理用ナプキンの使用は女性のエンパワーメントにとって重要であり、女性による生産性も向上します。しかし、それが普通に入手できないと、女性や女児に深刻な影響を与えます。就学年齢の女児が生理のために学校に行けないケースや、初潮を迎えたことで学校を辞めることもあります。2017 年に教育省とユニセフが実施した「月経衛生管理に関する知識、態度および実践に関する調査」では、48%の女子が月経による不快感のために学校を休んだ経験がありました。

現在、ブータンではさまざまなレベルの支援活動が行われており、生理用ナプキンが多くの場所で使用できるよう多大な努力がなされていますが、山岳地域の女性と女児にとってはいまだに懸念事項のひとつです。しかし本来、月経期間を健康的かつ衛生的に過ごすのは女性と女児の権利なのです。